

「続く」を支える。

ヤマタネ

2022 年 3 月期 決算説明会における主な質疑応答

2022 年 5 月 26 日開催

(物流部門について)

【Q1】

海外引越について、需要はどうなっているのか。国際物流が混乱している中で海上運賃も上がっていると思うが、利益を含めた今後の見通しは

A) 海外引越の需要は戻ってきていると感じております。しかし、中国では上海のロックダウンの影響でオーダーが入っていても、渡航者あるいは荷物の流れが止まっている状況で、この先の状況は不透明でございますが、利益につきましては、少なくとも前期対比で減少ということはないと見込んでおります。

(食品部門について)

【Q2】

食品部門の営業利益について、2022 年 3 月期は令和 2 年産米の販売価格の下落、今期の見通しでは印西精米センターの減価償却が減益の要因として挙げられているが、他に減益の要因があれば確認したい。また、食品部門は黒字化へどのような計画を立てているのか

A) 前期の営業利益につきましては、販売価格の下落のほか、在庫の増加も減益の要因でございます。在庫を減らすために低価格で販売したこともあり、前期につきましては棚卸資産評価損が生じました。また、印西精米センターは本年 2 月の開設であり、前期の償却費影響は軽微でしたが、今期につきましては通年計上となることから、減価償却費の計上が今期の営業利益減益の主な要因となります。この減価償却はかなり大きな影響がございますので、食品部門の黒字化は短期的にクリアすることは難しく、しばらく時間がかかると考えております。

【Q3】

円安傾向に加えて海外の穀物相場が上昇する中、日本産米の輸出に関する事業展開の構想はあるのか

A) 現時点におきましては、国内産米の輸出に関する事業展開の構想はございません。米粉の輸出であれば小麦粉の代替となる可能性もあり、米食の文化を持たない文化圏において新規需要を創出する可能性はあると考えております。しかし、当社のミッションは持続可能な稲作経営と日本国内における米食率の上昇に貢献することと考えております。

【Q4】

印西精米センターの稼働状況は

A) 印西精米センターは 2 月 8 日より本格稼働を始め、生産・出荷ともに順調な稼働状況となっております。また、無洗米の製造過程で発生する排水の飼料化も実現しております。稼働後 3 カ月が経過し実績が整い始めたため、SQF や ISO の認証取得にも着手しております。今後も安全・品質・効率を重視した生産管理体制を継続してまいります。

【Q5】

印西精米センターに関して、具体的な取扱量を教えてほしい

A) 今までの精米取扱量が、全て印西精米センターでの取扱量になると想定いただければ良いと思います。なお、今までは東京工場と岩槻工場の 2 工場で運営しておりましたが、東京工場は既に閉鎖しており、岩槻工場も間もなく閉鎖予定です。

【Q6】

多収米品種「萌えみのり」の令和 3 年産の生産・販売状況と令和 4 年産以降の計画は

A) 令和 3 年産は各産地における非主食用米への作付け転換を背景として、取扱量は減少いたしました。量販店での消費者向けの販売状況は順調に推移しておりますが、業務用向けはコロナ禍の影響もあり、やや進捗が遅れております。令和 4 年産も引き続き非主食用米への作付け転換が進むことから、取扱量は若干減少する見込みです。

【Q7】

多収穫米の取り組みに関して、外食需要が戻らない中で品種改良や営業戦略等の新しい考えはあるのか

A) ここ 10 年以上は多収穫品種「萌えみのり」を中心として活動してまいりましたが、これは多収穫への取り組みというより、もともとは持続可能な稲作経営を実現する仕組みを整えたいと思い続けてきたものです。その他の品種についてももちろん取り組んでおります。一方で、国が行っている「みどりの食料システム戦略」に呼応するような活動を、スピード感を持って進めていきたいと考えております。

【Q8】

農業 IoT「e-kakashi」を活用している農家をソフトバンクと支援していると思うが、ソフトバンクとは正式に業務提携をしているのか

A) 業務提携という正式な形はとっておらず、当社は「e-kakashi」商品のユーザーというポジションであり、ソフトバンク様には「e-kakashi」に関するサポートをしていただいております。

【Q9】

今期、コメ需要の伸びを期待しているとのことだが、手応えは感じているのか

A) 販売状況としましては、例えばパスタの値上がりを受けてお米の購入へ切り替えるというような動きは見られておらず、手応えはまだ感じておりません。

(長期ビジョン・中期経営計画について)

【Q10】

チャレンジ領域において「静脈物流を基盤とした 3R の推進」とあるが、具体的な想定があれば説明してほしい

A) 当社におきましては、「スリムス」という名称でガス機器の静脈物流を行っております。この取扱品目や輸送範囲を広げていきたいと考えております。一方、食品関係では、今年 2 月に開設した印西精米センターにおきまして、無洗米の製造工程で生じる排水を飼料に混ぜてご利用いただいております、これも循環の一環と考えております。さらに、稲作全体のサプライチェーンにおきましても物流の知見を活かした循環を図ってまいります。

【Q11】

ポートアイランド営業所において危険品倉庫を増設する予定とのことだが、危険品倉庫は現状でどのくらいあるのか

A) 当社において危険品倉庫は現在保有しておりません。お客様の貨物で危険品を取り扱った経験はございますが、全て再保管で対応しております。

【Q12】

チャレンジ領域において「食品量販店のセンター運営」とあるが、この 3 ヶ年で具体的なプランがあれば説明いただきたい

A) 具体的な数値目標は未設定ですが、食品部門のお取引先様にアプローチしていく計画です。

【Q13】

チャレンジ領域において「食の簡素化志向に対応した加工食品」とあるが、お米を自社加工して付加価値を付け、社会に提供していくことを想定しているのか

A) 新しくお米の加工に取り組んでいきたいと考えております。チャレンジ領域につきましては、自社だけでなく積極的に外部の方と協働で進めていきたいと考えております。

(株)シンヨウ・ロジの株式取得について)

【Q14】

(株)シンヨウ・ロジの株式取得の経緯を知りたい

A) もともとコールドチェーン物流市場への参入を検討しており、同業界に長けている方と協業できればと考えていたところ、タイミング良くご紹介いただきました。(株)シンヨウ・ロジは、非常に真摯に仕事をされており、当社の企業理念等についてもご納得いただき、スムーズに株式取得へと進みました。

【Q15】

(株)シンヨウ・ロジの株式取得後、経営陣に変化はあるのか

A) 今年4月より、当社から経営人材として2名、実務人材として1名、計3名が異動しております。

(印西拠点について)

【Q16】

印西プロジェクトにおける3温度帯物流センターの構想計画はどうなったのか。今後注力していくコールドチェーンとの関わりはあるのか

A) 印西における北側の敷地につきましては、具体的に開示できる段階ではございませんが、コールドチェーンや食品量販店センター等での活用を検討しております。

以上

〈ご留意事項〉

本資料は、投資家の皆様へのご参考として掲載しております。ご質問に対する回答の全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることを予めご了承くださいますようお願いいたします。